

ひらめき

菅田 忠志

「よし、これならいける」と思ったひらめきがある。

仕事上の開発や改良を考えると、既成概念にとられない独創的な発想が求められるが、いいアイデアというものは、ある日突然「キラッ」とひらめいてわいてくるものでもなさそうだ。訓練も必要だが、センスや感性が大きく左右するのもかもしれない。

「必要は発明の母」と言われるとおり、必要とするときに、必死になって考えてこそ、ときにはいいアイデアがキラッと浮かぶもので、なにもないところにはふとわき出てくるようなことはない。

通勤電車の中、寝床の中、トイレの中などで、考えても、考えても何もでてこないのが常である。

過去にも仕事上でのアイデアを数件特許に展開してきたことはあるが、それなりに必死に考えたあげ

- 1 -

くのアイデアであった。

そんな中で、仕事には直接関係のないところで「なんとかならないか」と思案していたことがある。このときも苦しみながら考えた末、「よし、これなら世界に通じるアイデアだ」とひらめき、さっそく本社特許部に先行技術調査を依頼、誰か先に申請していないかを確かめた。

それは、交差点の交通信号灯に関するアイデアで、誰もが経験のある朝日や西日によって、「3色共点灯しているように見える状態を解消させるもので、「これなら世界に通ずるぞ」と意気込んだ。

方法は、信号灯3色それぞれの前面に、液晶シャッターと呼ばれる液晶のガラス面を取付け、点灯させる信号灯、例えば青色信号灯の前面の液晶ガラス面のみ、光が透過するような制御信号を与えてやる。そのとき他は不透過となる制御信号を与えてやれば、青色部分は点灯色が透過して青色になるが、黄色と赤色部分は、前面の液晶ガラスが不透過であるため

- 2 -

真っ黒となり、朝日・夕日の反射を防ぎ、3色点灯しているように見える状態を防止できるとしたものであった。

残念！ 調査の結果、タッチの差で全く同じアイデアがすでに出願されていた。世の中そんなに甘くはなかったことを思い知らされ、意気込みはたちまちしぼんでいった。

あれから3年、今は次のひらめきを引き寄せるための、頭の体操が始まっている。

ひとつは、持って歩いても恥ずかしくない「犬の散歩用ファッシュيونトイ」、もうひとつは冬の食卓に置いて、食べながらときどき^上仕器を加熱させる「茶わん・おわん温め器」にチャレンジしている。さらあこのアイデアどう展開させてゆこうか。。。どんなひらめきが生まれてくるのか、この先が楽しみだ。

